

ビューポイントパーキングの整備と効果に関する報告*

Development of Parking Lots at Scenic Points and Their Effects*

伊藤治**・生出靖***・阿部英樹***

By Osamu ITO**・Yasushi OIDE***・Hideki ABE***

1. はじめに

「めまんべつメルヘンの丘（以下、メルヘンの丘と記す）」¹⁾(写真-1)は、一般国道 39 号沿いの大空町女満別(旧女満別町)昭和地区にあり、丘陵地にたたく7本の木とその前面に広がるジャガイモや小麦、豆、ビート畑が四季折々に表情をかえ牧歌的な景観を織りなし、平成 17 年 5 月に指定された東オホーツクシーニックバイウェイ「知床・流氷ステージ」を代表するビューポイントであり、絶好の写真撮影ポイントとして道内外の写真愛好家から注目されていた。



写真-1 メルヘンの丘

さらに、近年の写真愛好家の増加に伴い、この場所に撮影に訪れる人数も増加した。しかし、駐車スペースが無いことによる路上駐車や路上での撮影が頻繁に見られるようになり、早急な交通安全対策が課題となっていた。

このような背景のもと、当箇所が抱えている課題の解消や更なる地域観光資源としての魅力の向上・利活用を図るために、国土交通省北海道開発局網走開発建設部では、国道沿いのビューポイントパーキングの整備を行った。本報告では、地域住民とのワークショップ開催と整備にいたるプロセス、整備したビューポイントパークの構造及び整備効果について述べる。

*キーワード：シーニックバイウェイ、景観、観光

**正会員、(社)北海道開発技術センター

(札幌市中央区南1条東2丁目11番地 南1条タカハタビル
TEL011-271-3028、FAX011-271-5366)

***正会員、国土交通省北海道開発局網走開発建設部網走道路事務所 (網走市大曲1丁目6-3

TEL0152-43-4328、FAX0152-45-3287)

****正会員、国土交通省北海道開発局網走開発建設部網走道路事務所 (網走市大曲1丁目6-3

TEL0152-43-4328、FAX0152-45-3287)



図-1 メルヘンの丘

2. 整備前の状況

(1) 交通面における課題

図-1にメルヘンの丘の位置を示す。「メルヘンの丘」周辺の平日交通量は、10,223台/日であり²⁾、オホーツク圏の国道では、交通量の多い路線である。撮影ポイントとして知名度が高くなるにつれて、1)駐車スペースが無いことによる路上駐車、2)路上駐車があることによる通過車両のセンターラインのはみだし、3)路上での撮影、4)撮影機材を持つての道路横断が恒常的に見られるなど、道路機能の低下や事故の危険性の増加が懸念されていた。(写真-2参照)



写真-2 整備前の利用状況

(2) 地域観光における課題

このように多くの写真愛好家が訪れる場所であり、オホーツクの優れた自然景観を体験できる場所でありながら、駐車スペースが確保されていないため、安心して撮影ができないだけでなく、レンタカーなどで訪れた観光客も立ち寄れない、安心して景色を楽しむことができないなど、観光資源として十分活用されていない状況になっていた。

(3) 耕作者に対する課題

このポイントの景観的に優れている所は、丘陵地にたえずむ7本の木とその前面に広がるジャガイモや小麦、豆、ビート畑が四季折々に表情をかえる点である。しかし、写真愛好家による作物の花などを接写するための耕作地への立入りや、それに伴う病害菌が作物に伝染する恐れがあるなど、耕作者が撮影スポットであるが故の不安を抱えており、農業と観光の共存も課題であった。

3. 地域協働による整備計画立案

前述の課題から、交通安全対策としての整備だけではなく、優れた自然景観にゆとりをもって体験してもらうための空間や駐車場の場を提供する「ビューポイントパーキング」の整備を計画した。

整備計画を立案するにあたり、地域周辺の意見、要望を取り入れるため、自治体、商工会、観光協会、建設業協会、地元自治会、写真愛好家など22名からなるワークショップを発足して検討を行った。

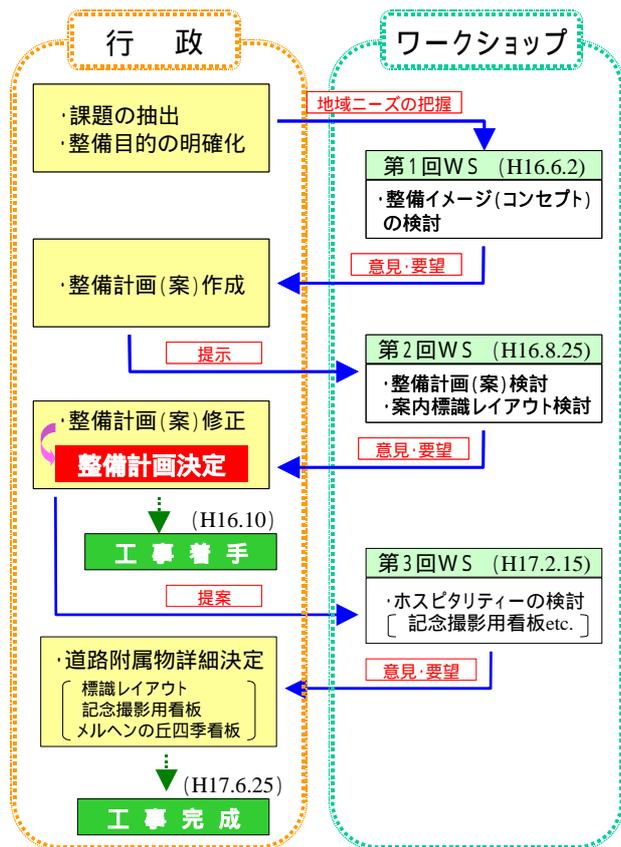


図-2 ワークショップでの検討内容及び整備までの流れ

(1) 地域協働による計画案づくりの概要

整備計画の立案は、ワークショップを3回開催し、地域の方々との合意形成を図りながら行った。ワークショップでの検討内容及び整備までの流れを図-2に示す。

第1回ワークショップでは、当箇所の現状の把握、課題の抽出をしたうえで、整備イメージ、コンセプトの検討が行われた。

第2回ワークショップでは、整備計画(案)をもとに、ユニバーサルデザインやゆとり空間、耕作者との共存等を考慮した路側駐車帯の詳細計画と、案内標識について検討が行われた。

第3回ワークショップでは、記念撮影用看板や案内板の外国語表記等のホスピタリティーについて検討が行われた。

なお、ワークショップは、1)出された様々な意見に対し、十分な検討を行い、結果をわかりやすく提示する、2)メンバー全てが毎回参加できないことや開催時期があることから、本題に入る前に前回のワークショップで決定した事項等を確認し、情報の共有化を図る、という2点に留意して行った。

(2) 路側駐車帯整備計画

図-3にビューポイントパーキングの構造詳細を示す。近年のマイカーやレンタカーを利用した少人数での旅行の増加、写真撮影ツアーのバス等を考慮して、バス2台・乗用車10台が駐車可能なスペースを「メルヘンの丘」の前に確保する計画とした。整備規模については、ワークショップでの議論等を踏まえた上での結果である。

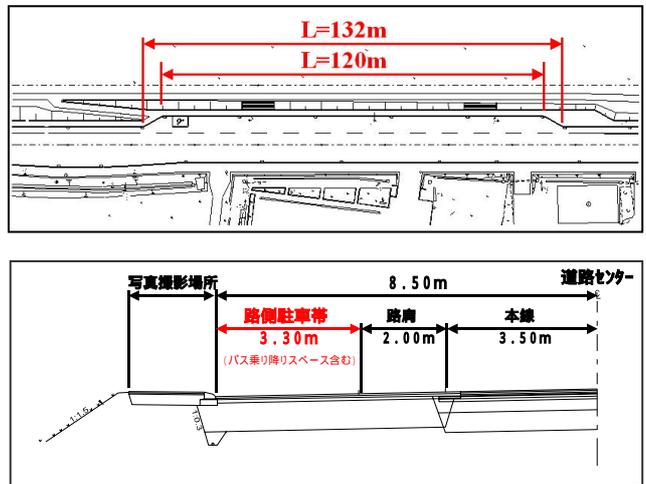


図-3 ビューポイントパーキング詳細図

(3) ゆとり空間の整備計画と耕作者との共存

観光客や写真愛好家たちが、それぞれの目的に合わせて、自然景観を安全にゆっくり楽しむことができるように上下2段構造(図-4参照)を採用し、車いす使用者が円滑なすれ違いができるように幅員を2mに設定した³⁾。また、ゆとり空間と耕作地が接することから、自然景観や眺望に配慮した木柵(H=60cm)を設置し、耕作地への侵入を防止することによって、耕作地・観光スポットとしての共存を図った。

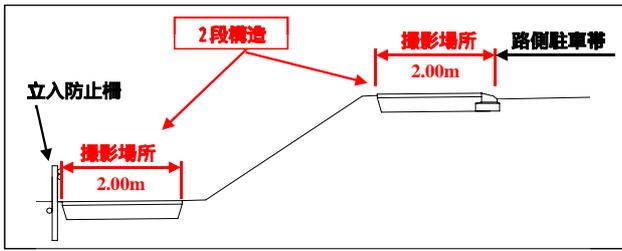


図-4 ゆとり空間断面図

4. 整備後における利用状況

(1) 交通安全の確保

大型バスも駐車可能なスペースを確保することにより、観光客などが気軽に駐車することができ、通過車両もスムーズな走行が可能となるなど交通機能が確保された。また、「メルヘンの丘」の目の前に駐車スペースを確保したことにより、撮影機材を持っての道路横断も見られなくなるなど利用者の安全も確保された。(写真-3参照)



写真-3 整備前と整備後の交通状況の変化

(2) 安心・安全なゆとり空間整備による変化

ビューポイントパークの整備により、「メルヘンの丘」を背景に記念撮影をしている観光客や、観光案内しているタクシードライバー、更には地域住民が夕景を見に訪れている光景が多く見られた。

また、写真愛好家も上下2段構造を利用し、異なったアングルで撮影を行えるようになったことから、撮影ポイントとしての魅力も向上した。また、乳母車を利用した家族連れが写真撮影を楽しんでいるなど、整備前には見られなかった光景も数多く見られるようになった。(写真-4参照)



写真-4 整備後における利用状況

(3) 耕作者との共存

耕作地・観光スポットとしての共存を目指し、木柵を設置したが、整備完成直後、耕作地への立ち入りが若干

見られた。そこで、自治体と協力し、「お願い看板」を設置し、耕作者との共存に対する取り組みを行った。

その結果、耕作地への立ち入りが見られなくなるなど、利用に対するルールが浸透し、耕作地・観光スポットとして共存を図ることができた。

5. 整備効果の検証

ビューポイントパーク利用者の感想や満足度を把握するため、夏期は平成17年8月13日(土)、秋期は平成17年10月9日(日)~11日(火)、冬期は平成18年2月11日(土)~12日(日)にアンケート調査を行った。(表-1参照)

表-1 調査対象者の性別・年齢層

	夏期		秋期		冬期	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
男	78	76.5%	75	75.0%	20	69.0%
女	24	23.5%	25	25.0%	9	31.0%
合計	102	100.0%	100	100.0%	29	100.0%

	夏期		秋期		冬期	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
10代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20代	33	32.4%	41	41.0%	8	27.6%
30代	27	26.5%	26	26.0%	6	20.7%
40代	18	17.6%	16	16.0%	4	13.8%
50代	18	17.6%	13	13.0%	9	31.0%
60代	6	5.9%	4	4.0%	2	6.9%
70代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
80代以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	102	100.0%	100	100.0%	29	100.0%

(1) 利用者の居住地

図-5にシーズンの来訪エリアの変化を示す。夏期・秋期の調査期間中に「メルヘンの丘」を訪れた70~80%がオホーツク圏外からの観光客などであり、その内の50%が道外からの観光客になっている。一方、冬期調査期間は、オホーツク圏外からが約45%、道外からは約20%まで減少した。

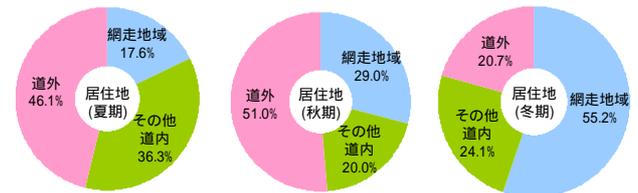


図-5 シーズンによる利用者の居住地の変化

(2) 利用者の訪問目的および意識の変化

図-6に訪問別の目的を示す。訪問目的は、景観眺望や写真撮影が季節にかかわらず60~70%を占めている。特に「写真撮影のため」の割合は、季節を追うごとに増加している。

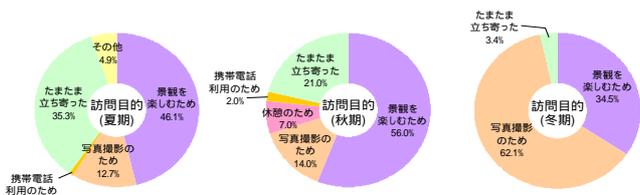


図-6 訪問目的

図-7 に整備前後での利用者の意識変化を示す。図-7 から、「以前も来たことがあるが立ち寄りやすくなった」の割合が、夏から冬にかけて増加している。一方、「以前は停車しようとも思わなかった」の割合は、減少している。

このことから、ビューポイントパーキングは、休憩場所というこれまでの路側駐車帯の機能に加え、観光や撮影ポイントとして利用されており、計画当初の整備目的を果たしており、整備効果が大きいことが明らかになった。

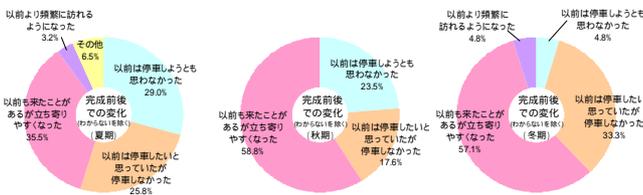


図-7 整備前後での利用者の意識変化

(3) 全体評価

図-8 に利用者の満足度を示す。図-8 から、駐車帯、観光ポイント、交通安全面すべての項目に対して、「非常に満足」、「やや満足」の割合は、80~90%になった。しかしながら、シーズン別に見た場合、冬期の満足度が夏期、秋期と比べて小さいことから、今後、冬期課題の詳細な抽出、検討が必要と考えられる。

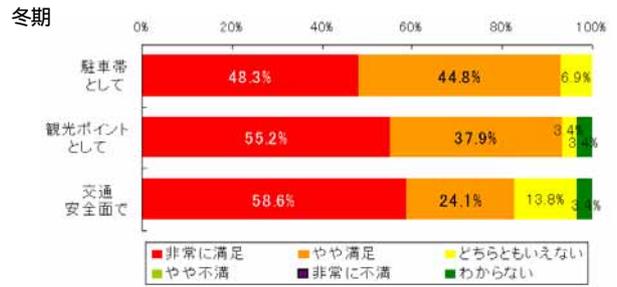
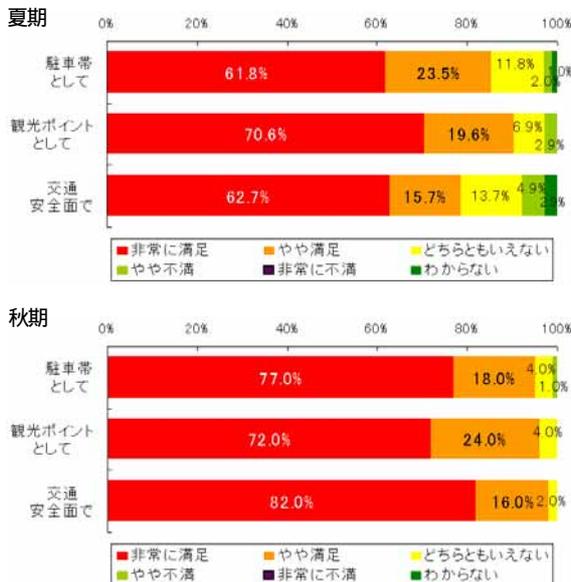


図-8 利用者の満足度

以上の結果から、ビューポイントパーキングは、道路とその沿道が一体空間として機能することにより、その魅力が向上したことを表しており、地域の魅力を知り尽くした地域の方々との協働し、整備計画を検討した賜といえる。

6. 今後の課題

地域観光資源としてビューポイントパーキング「メルヘンの丘」の魅力さをさらに高め、より多くの方々に利用してもらうには、PR 活動や利用者の満足度向上のための調査・検討、農業との共存による景観の保全、地域住民と道路管理者が役割分担した管理体制の構築等が必要である。

そのためには、「シーニックバイウェイ北海道」の活動を着実に推進し、課題を一つずつ解決していかねばならないと考えている。

7. 謝辞

ビューポイントパーキングの計画、整備に関して、貴重なご意見をいただいたワークショップメンバーならびに地域の方々のご理解・ご協力に謝意を表す。

参考文献

- 1) 荒井一憲：地域協働を目指した道路整備について—一般国道39号「メルヘンの丘ビューポイントパーキング」—, 第49回(平成17年度)北海道開発局技術研究発表会, 論文 No. 参-7, (2006.2)
- 2) 北海道開発局道路計画課：平成11年度全国道路交通情勢調査(道路交通センサス), (2000)
- 3) 国土交通省道路局企画課：道路の移動円滑化整備ガイドライン, (2003.1)